

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和08年03月24日

計画の名称	生物多様性を支える水・緑・人のネットワークの形成・持続的保全・質の向上												
計画の期間	令和02年度 ~ 令和06年度 (5年間)								重点配分対象の該当				
交付対象	一宮市												
計画の目標	<p>【公園整備による水と緑のネットワークの創出と生物多様性の保全】</p> <p>一宮市の新市建設計画の「水と緑のネットワーク構想」や一宮市緑の基本計画に位置づけられる都市公園整備の方向性に基づき、雄大な木曽川に接する木曽川沿川緑地など一宮市の代表的な公園を中心とした緑の拠点・回路の創出を行うことにより水と緑の基幹的なネットワーク形成を図るとともに、多様な生物の生息域である木曽川沿川区域を軸とした都市の中における水や緑に関する生態系の持続的な保全や質の向上を図る。</p>												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	215	A	215	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
1	一人当たりの公的緑地面積を9.0㎡/人から9.5㎡/人に増加させる。			
	一人当たりの公的緑地面積	9㎡/人	㎡/人	10㎡/人
	一人当たり公的面積 = (都市公園 + 都市公園に準ずる面積 + 公共施設緑地) / 行政区域内人口			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												R02	R03	R04	R05	R06				
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		備考																		
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	一宮市	直接	一宮市	-	-	都市公園事業(木曾川沿川緑地)	自転車道・遊歩道の整備 L=1.6km	一宮市						2		-	
		番号A12-002と同一事業																		
	A12-002	公園	一般	一宮市	直接	一宮市	-	-	都市公園事業(木曾川沿川緑地)	自転車道・遊歩道の整備 L=1.6km	一宮市						0		-	
		番号A12-001と同一事業																		
	A12-003	公園	一般	一宮市	直接	一宮市	-	-	都市公園事業(青木川河川敷公園)	遊歩道の整備 L=3.6km	一宮市						202		-	
	A12-004	公園	一般	一宮市	直接	一宮市	-	-	都市公園事業(木曾川尾西緑地)	自転車道・遊歩道の整備 L=0.9km	一宮市						11	9.2	-	
											小計						215			
											合計						215			

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
一宮市社会資本総合整備計画評価委員会において、事業実施状況・指標の達成状況の確認及び事後評価を実施	令和8年3月
	公表の方法 一宮市公式ウェブサイトで公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	一人当たりの公的緑地面積の目標値を達成することはできなかったが、青木川河川敷公園の継続的な整備により、水と緑のネットワークの創出に一定の効果を発現することができた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	青木川河川敷公園の整備により、近隣の学校施設に通う児童等の利用者が増加した。
特記事項（今後の方針等）	
令和7年度からの計画である「生物多様性を支える水・緑・人のネットワークの形成・持続的保全・質の向上」において、継続事業の進捗を図り、一人当たりの公的緑地面積を増加させる。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	一人当たりの公的緑地面積		
	最終目標値	10㎡ / 人	目標値と乖離があった原因は、木曾川沿川緑地や木曾川尾西緑地の事業において、かわまちづくり支援制度の活用検討や、国との事業調整によるものであるが、青木川河川敷公園については、継続的に整備を行い、公園面積が12,387㎡増加したことにより、水と緑のネットワークの創出に一定の効果を発現することができた。
	最終実績値	9㎡ / 人	